# 假名安驥集 二

和書門 類
一七二四七 號
一七二 函
一〇 架
一二 冊

内閣文庫
和書 類
一七二四七 號
一二 冊
一五四 函
二〇 架

武備 兵法

| 内閣文庫 | | |
| --- | --- | --- |
| 番號 | 和 | 17247 |
| 冊數 | 12 ( 2 ) | |
| 函號 | 154 | 429 |

国立公文書館
National Archives of Japan

# 假名安驥集巻第二

○五輪碎

甲乙ニハ肝ノ臓ヨリ病發ス腑ハ膽ノ腑ナリ藥ニハ酸キ物ヲ本味トシテ鹹キ物苦キ物此ノ三ツヲ飼ヘシ甘キモノ辛キモノ歒味ナリ口傳アリ

丙丁ニハ心ノ臓ヨリ病發ス腑ハ小腸ナリ藥ニハ苦キ物ヲ本味トシテ甘キモノ酸キ物此ノ三ツヲ嚾ヘシ辛キ物鹹キ物ノ歒味ナリ

戊己ニハ脾ノ臓ヨリ病發ス腑ハ胃ノ府ナリ藥ニハ甘キ物ヲ本味トシテ苦キモノ辛キモノ此ノ三ツヲ嚾ヘシ鹹キモノ酸キモノ歒味ナリ



日本政府圖書
淺草文庫

庚辛ニハ肺ノ臓ヨリ病發ス府ハ大腸ナリ藥ニハ
辛キ物ヲ本味トシテ甘キモノ鹹キモノ此ノ三ツヲ
啗ヘシ酸キモノ苦キモノ敵味ナリ
壬癸ニハ腎ノ藏ヨリ病發ス府ハ膀胱ナリ藥ニハ
鹹キ物ヲ本味トシテ辛キモノ酸キモノ此ノ三ツヲ
啗ヘシ苦キモノ甘キモノ敵味ナリ

○馬ノ其性ニ依テ其性ノ日病ヒヲ得ル則ンハ惡
シ譬ヘハ

春三月ハ　甲乙ノ日　木性ノ馬
夏三月ハ　丙丁ノ日　火性ノ馬
土用ニハ　戊巳ノ日　土性ノ馬
秋三月ハ　庚辛ノ日　金性ノ馬
冬三月ハ　壬癸ノ日　水性ノ馬

○馬ノ定業日

正月寅ノ日寅ノ時　二月巳ノ日巳ノ時
三月未ノ日未ノ時　四月午ノ日午ノ時
五月申ノ日申ノ時　六月子ノ日子ノ時
七月亥ノ日亥ノ時　八月亥ノ日亥ノ時
九月戌ノ日戌ノ時　十月辰ノ日辰ノ時
十一月申日申ノ時　十二月卯日卯ノ時

又

正月庚寅　二月辛未　三月巳巳

四月戊午　五月甲申　六月丙戌
七月丁未　八月戊寅　九月壬申
十月癸酉　十一月丙寅　十二月巳亥
右ノ日始テ病ヒヲ得ル則ンハ必ス死ス

春秋夏冬土用

空風火水地

腎臓方北也重コト一斤二两

肝臓方東重コト一斤十二两

膀胱重コト廿二两也

心臓方南重コト一斤八两也

小腸目サタマラス大小ニヨル

肺臓方西也重二斤四兩也

胃腑重叓不定
但本長ニメ二斤六
兩也

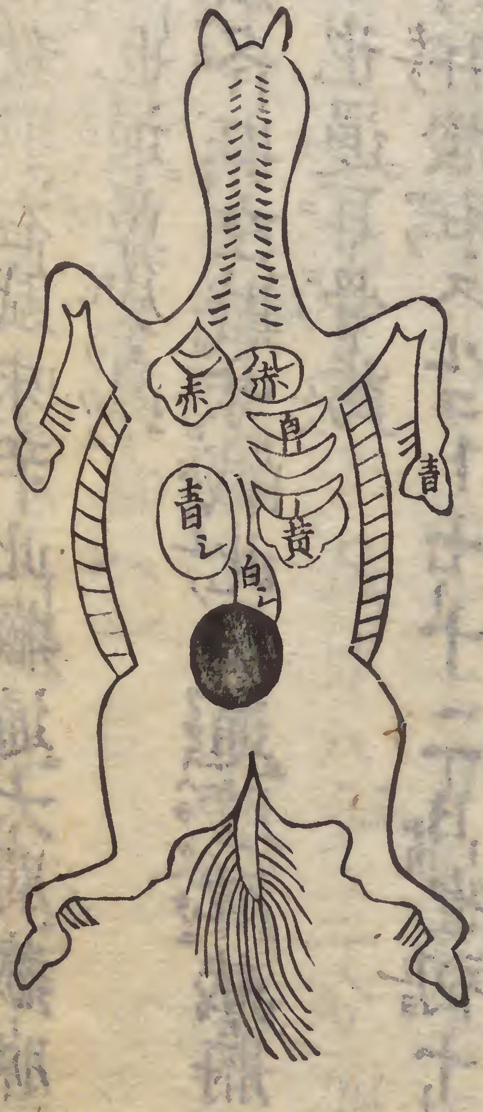
格丁一斤十兩

脾臓方中央重叓一斤十六兩也

肝臓春旺左賦味酸此藏通膽藏腑共體木
也通眼筋爪

心臓夏旺左賦味苦此藏通小腸藏腑共體
火也通舌血毛

脾臓土用旺右賦味甘此藏通胃腑藏府共
體土也通唇肉乳



肺臟秋旺右賦味辛此藏通太腸藏腑共體ハ
金也通鼻皮息ニ
腎藏冬旺左賦味鹹此藏通膀胱藏腑共躰ハ
水也通耳骨齒ニ

春三月肝藏旺スルコト七十二日也初十五日
ハ冬ニ三分加ウ末十五日ハ夏ニ三分加ウ然ルヲ
以テ四十餘日也然トイヘトモ初十日ハ冬
一分殘ル末十日ハ夏一分來ル中旬二十日
ト知ヘシ

夏三月心藏旺スルコト七十二日也初十五日
ハ春三分加ウ末十五日ハ土用ニ三分ニ加ウ中
四十二日也然リトイヘトモ初十日ハ春一分
ノコル末十日ハ一分來ル中旬二十日ト知ヘシ

土用脾臟旺スルコト七十二日也初十五日ハ夏
三分加ウ末十五日ハ秋三分加ウ中四十二
日也然リトイヘトモ十日ハ夏一分ノコル末十
日ハ秋一分來ル中旬二十日ト知ヘシ

秋三月肺臟旺スルコト七十二日也初十五日
ハ土用三分加ウ末十五日ハ冬ニ三分加ウ中
四十二日也然リトイヘトモ末十日ハ冬ニ一分
來ル中旬三十日ト知ヘシ

冬三月腎臟旺スルコト七十二日也初十五日ハ

秋三十分加ウ末十五日ハ春三十分加ウ中四十
二日也　然リトイヘトモ初十日ハ秋一十分ノコル
末十日ハ春一分來ル中旬二十日ト知ヘシ
肝木膽府眼筋爪　　肺金大腸鼻皮息
脾土胃府唇肉乳　　心火小腸舌血毛
腎水膀胱耳骨歯　　火體赤色南三角
木體青色東團形　　金躰白色西半月
土體黄色中四角
水體黒色北圓形
左心小腸肝膽腎膀胱
右肺大腸脾胃命門三焦

前面ニ六門アリ後面ニ四門アリ門ゝ椰對ニテ
馬ニ一百五十九道アリ明究弁ニアルコト一百
八十道白鍼一百八十道火鍼ノ内ニ各ノ去
トコロアリ夫レ鍼スル則ハ害ナシ補鍼ニ義アリ
若ヤ丶一絲ヲ偏セハ鍼セサランニハシカシ上纖中
纖下纖アリ上纖ハ是レ左ノ譚脉中纖ハコレ帯
脉下纖ハコレ腎脉也纖ハ汚トナル也汚ハ血ト
ナル也馬ニ三堂六脉アリ三堂ト者一ニハ胷堂
二ニハ玉堂三ニハ腎堂コレヲ三堂ト名ク六脉
トハ一ニハ耳根動セス二ニハ耳脉散セス三ニハ
口色惡カラス四ニハ舌色弱カラス五ニハ膕前ニ

七道アリ命脉絶セス六ニハ臓後ニ七根アリ命毛ソハタテス是ヲ六脉ト名ク肝ハ眼ヲ主トリ腎ハ耳ヲ主トリ脾ハ唇ヲ主トリ肺ハ鼻ヲ主トリ心ハ舌ヲ主トル眼耳唇鼻舌是ヲ外腎ト名ク肝肺脾心腎是ヲ内腎ト名ク其外即チ其内ヲ知リ内外相應病ヲ認メ藥ヲ下サハ何ンソイヘスト憂ルコトアラン大腸ハ江ノコトク小腸ハ海ノコトク頭心肺腎ハ四海ノコトシ頭ハ髓海トシ心ハ血海トシ肺ハ氣海トシ腎ハ水海トス血海ハ溝渠ノコトシ大腸ハ長一丈二尺一年十二ケ月ヲカタトル小腸長二丈四尺一年二十四氣ヲ按ス呼テ



内ノ一疋トス四蹄ニ八字アリ四八三十二馬ニ頭ノ高サ八尺ナリ八節ノコトシ呼テ外ノ一疋トス夫レ馬ハ是四足トイヘトモ亦陰陽ヲウケテ生シ灰臺ノ下ニ生ス龍天池ノ水ヲ飲シ遂ニ生シテ馬ヲ得ル馬ノ祖ニ亦父母アリ父ヲ屈強ト名ケ母ヲ屈女ト名ク屈女女子ヲ生ス女子生シテ飛兎ヲ得ル飛兎生シテ騏驎ヲ得ル騏驎生シテ馬ヲ得ル馬生シテ騾ヲ得ルナリ凡ソ馬ニ三百六十骨節有リ亦タ三百六十穴アリ馬ニ二十萬二千一百一十經アリ病ヲ毛竅ニウク馬ニ亦二斗六升ノ血アリ出ルイキヲ喘トシ入ルイキ

ヲ息トス馬ニ病ヒナキカ如キンハ一日一夜ニ二三
萬六千一百度ノ喘息アリ馬ニ病ヒアルカ如キ
ンハ一日一夜ニ三萬六千一百二十五度ノ
喘息アリ馬ニ六腑アリ膽ヲ清淨ノ腑トナシ大
腸ヲ傳送ノ腑トナシ胃ヲ草穀ノ腑トナシ小腸
ヲ受盛ノ腑トナシ膀胱ヲ津液ノ府トナシ三焦ヲ
中ノ府トナス夫馬ヲ醫スル者ハ須ラク病源ヲ知
リ其根本ヲ察シ筋脉キヽシツマヒラカニシ其喘息
ヲ聽テ便チ生死ヲ知ルヘシ春三个月ハ一日一
夜ニ血脉流轉スルコト二百四十遭夏三个月
一日一夜ニ血脉流轉スルコト一百八十一遭

秋三箇月ハ一日一夜ニ血脉流轉スルコト一
百二十遭冬三箇月ハ一日一夜ニ血脉流轉
スルコト六十遭春三箇月ハ肝旺シ夏三箇月
ハ心旺シ秋三箇月ハ肺旺シ冬三个月ハ腎旺
ス肝ハ東方甲乙ノ木ニ屬シ心ハ南方丙丁ノ
火ニ屬シ肺ハ西方庚辛ノ金ニ屬シ腎ハ北方
壬癸ノ水ニ屬シ脾ハ中央戊己ノ土ニ屬ス春
三箇月ハ肝旺スルコト七十二日夏三箇月ハ
心旺スルコト七十二日秋三箇月肺旺スルコ
ト七十二日冬三个月腎旺スルコト七十二日
脾ハ正形ナシ旺スルコト四季ノ内ニアリ各旺ス

ルコト一十八日馬ニ四百八病アリ内ニ四病見ヘス春一百一病ヲ管シ夏一百一病ヲ管シ秋一百一病ヲ管シ冬一百一病ヲ管ス内ニ四病アリ見ヘストイツハ口中ニ鐵ヲフクミ背上ニ鞍ヲカケ兩邊ニ鐙ヲタレ今ノ人馬ニ乗騎ス若シ病ヒアラハ須ク是ノ病ヒニ應シテ藥ヲ下スヘシ

○口色形候　無病ハ即四季口色皆紅

春季ニ口中青キハ病ヒ肝ニアリ治シカタキ也若シ變シテ黒キハ治スヘシ謂ユル水生木ナリ變シテ白キハ治スヘカラス謂ユル金尅木也

夏季ニ口中赤キハ病ヒ心ニアリ治シカタキ也若シ變シテ青キハ即チ治スヘシ謂ユル木生火ナリ變シテ黒キハ治スヘカラス謂ユル水尅火也

秋季ニ口中白キハ病ヒ肺ニアリ治シカタキ也若シ變シテ黄ナルハ治スヘシ謂ユル土生金ナリ變シテ赤キハ治スヘカラス謂ユル火尅金也

冬季ニ口中黒キハ病ヒ腎ニアリ治シカタキ也若シ變シテ白キハ即チ治スヘシ謂ユル金生水也變シテ黄ナルハ治スヘカラス謂ユル土尅水也

四季ノ下旬ニ口中黄ナルハ病ヒ脾ニアリ若シ變シテ赤キハ即チ治スヘシ謂ユル火生土也變シテ青キハ治スヘカラス謂ユル木尅土也

○五勞

五勞ハ謂ユル筋勞骨勞皮勞氣勞血勞也

○筋勞ハ久シク歩ムニ因テ是ヲ得ル其ノカタチ終日驅馳放シテ騁セサルモノ是ナリ其レ病トナル則ンハ發シテ蹄メ痛ム氣ヲシノクノ病也

○骨勞ハ久シク立ニ因テコレヲ得ル其カタチ騁ストイヘトモ而モ時ナラスシテオキルモノ是也其レ病トナル則ンハ癰腫ヲ發ス

○皮勞ハ久シク汗シ乾カサルニ因テコレヲ得ル其カタチ騁ストイヘトモ起テ毛ヲフルハサル物コレナリ其病トナリテ脊ヲハサンテ是ヲ摩スルハ熱也



○氣勞ハ汗イマタヤマサルニ乗リ乾カシテ飼飲ニ因テコレヲ得ル其カタチ毛ヲフルウトイヘトモ而モ即鼻フキセサルモノ是也其レ病トナリ苦ミテ氣宣通セス故ニ須ク緩クコレヲムマヤノ上ニツナクヘシ餵草ヲトホサカレハ乃チハナヒル也

○血勞ハ驅馳時ナキニ因テコレヲ得ル其カタチ鼻フキストイヘトモ而モ即チ溺セサルモノ是也ソレ病トナル則ンハ強ヲ發シ行ク高クコレヲツナキ飲餵ヲ得スシハラクシテ乃チ大イニ溺スル也

○七傷

七傷ハ謂ユル寒傷熱傷水傷飢傷飽傷肥傷

走傷也
○寒傷ハ冷月ニ宿水ヲノマセテ寒處ニツナクニ因テ是ヲ得ル其病ヒ馬ヲシテ毛焦レ塵ヲウケシム是也
○熱傷ハ暑月ニ乗騎スルコト過多ニシテ時ナラサルニ飲餵スルニ因テコレヲ得ル其病ヒ馬ヲシテ煩躁シ悶亂セシム是也
○水傷ハノリマワシテ便チ飲水トヽマリ滞ホリ散セサルニ因テ是ヲ得ル其病馬ヲシテ水腸胃ニ結シ積聚シテ病ヒトナル是也
○飢傷ハ馬サカシニ飢ヘ更ニ大イニ走ラシメ喘息イマタシツマラサルニ卒然トシテ飲餵スルニ因テコレヲ得ル其病ヒ馬ヲシテ心脾氣結シ草料消セサル是也
○飽傷ハ飽テ乗騎シ而モ便チ飲餵吃草太タ猛キニ因テコレヲ得ル其病ヒ馬ヲシテ腸胃ニ積聚セシメ糞行遲クシフル是也
○肥傷ハ馬臕太力行ニ因テコレヲ得ル
○走傷ハ馬キハメテ走ルコト太タ過ルニ因テコレヲ得ルニツノモノハ皆馬ヲシテ肉斷シ脂消シ氣續サラシムル也
○馬師皇八邪論

黄帝問テ曰ク夫レ馬ニ八ノ邪ノ病ヒアリ遂ニ天地寒暑ヲ逐テ往來シ五臟傳遍シテ散ス其病形大小體ノカタチ皆イカン馬師皇荅テ曰ク八邪ノ病トハ風寒暑濕飢飽勞役是也即チ大小トナク五臟ニ遍ク傳ヘ四肢ヲアワセ攻ム其レ病トナラハ當ニ處ニシタカツテ攻ムヘキ也

一ニ曰風傷肺　皮毛ハ肺ノ合也風邪先ツ皮毛ニ客トシテ久シクシテ乃チ合スル處ニヤトル故ニ風肺ヲ傷ルト云ウ

二ニ曰寒傷脾　脾ハ土也濕ヲニクム寒濕ミナ陰氣ナスナリ故ニ寒脾ヲ傷ルト云ウ

三ニ曰暑傷六腑　六腑ハ陽トス陽ハ上ニアリ暑ハ火氣ナリ火炎上ス故ニ暑六腑ヲ傷ルト云ウ

四ニ曰濕傷腎　濕ハ土ニ屬ス腎ハ水ニ屬ス土ハ水ヲ尅ス故ニ濕腎ヲ傷ルト云ウ

五ニ曰飢傷脂　脂ト肉トマシヘ生ス凡ソ馬ハ水草足ル則ンハ肥テ脂ラアリ水草タラサル則ンハヤセテアフラナシ飢トハ謂ユル水草不足也故ニ脂傷ラル故ニ飢テ脂ヲ傷ルト云ウ

六ニ曰飽傷五臟　飽トハ謂ユル水草太タ過ルナリ水草スクル則ハ腸胃傷ラル故ニ飽テ五臟ヲ傷ルト云ウ

七曰勞傷心　心ノ液ハ汗トナル勞スル則ハ汗イテヽ心液ヲ損ス故ニ勞シテ心ノ藏ヲ傷ルト云ウ

八曰役傷肝　役トハ行役ナリ久シキ則ハ〻筋ヲ傷ル肝ハ筋ヲ主トル故ニ役シテ肝ヲ傷ルト云ウ

然ルニ風寒暑濕ハ四時ノ病ヒ也外陽トス病ヲ受テハ陰藥ヲ與ヘテコレヲ服ス是陽ノ病ヒヲ治スルナリ飢飽勞役ハ一體ノ病ヒ也內陰トス病ヒヲウケテハ陽藥ヲ與ヘテ是ヲ服ス是陰ノ病ヒヲ治ス一日ハ皮膚太陽ニ病ヲ受ク二日ハ表胃ニ病ヲ受ク三日ハ血心ニ病ヲ受ク四日ハ藏府ニ傳ウ五日ハ諸臟ニ病ヲウク六日ハ三陰



三陽ニ病ヲウク七日ハ遍ク攻ム八日ハ亂レ攻ム九日ハ三損ス十日ハ病﨟ス醫療時ヲ失ス此ハ是十種日ノ病也皮膚ハ六腑ノ上ニアリテ陽也馬水穀ヲ食シ然シテ後カラヲナス水穀腹中ニアリテ化シテ氣血トナル氣血乃チ皮膚ニ行ク其糟粕ハ大小腸ニツタヘ與フ小腸ハ心ニ連ナル心ハ火ニ屬ス太腸ハ肺ニ合ス肺ハ金ニ屬ス肺ハ華蓋ニカタドル是五臟之蓋ナリ以テ太陽ニ屬スルナリ心ハ南方丙丁ノ火ニ屬ス以テ純陽ニ屬スル也內腎精ヲ隱シテ以テ太陽ニ屬ス肺ハ厥陰トス肺ハ太陰トス外ハ少陽トシテ

以テ宰トル也六日ハ三陰三陽唯厥陰ニ病ヲ
ツハキ内損シ寃傷ル肝中ニ寃ヲ隠レ肺中ニ魄
ヲ隠シ心内ニ神ヲ藏シ腎内ニ精ヲ藏ス三陰三
陽皆病ヒヲウク七日ハ遍ク攻メ内外トモニ盡
ク九日ハ三損ス其三焦ヲ損レ毛髪乾キ枯レ
筋甲シタカハス行動カラナク牙齒ウコキウコク夫
レ馬ノ出相トハ是馬五臓ノ神内ニ變シテ即チ
病ヒアレハ外ニアラハル人コレヲ相スルトハ其外ヲ
見テ以テ其内ヲ知ル是ヲ以テ凡ソ馬ニ病ヒ有
ハ先ツ口色ヲ見ル晝ハ即チ其行歩ヲ見夜ハ即
チ其喘息ヲ聴テ即チ病ノ源ヲ知ル然シテ後其
逆順ヲ觀テ其吉凶ヲ定ム八邪ニ因テ生セスト
云ウコトナシ

○治一十六般蹄頭痛

乾漏痛第一

蹄ニ乾漏ヲ生スルハ本風ニヨル血脉衰ヘ時ニ
膿ト變セス若シ泥ニヤフラレハミチ塞リテフクル、
行ク時イタミヲ覺ヘアユミ後ルコトモノウシ利刀ニ
テサキ開ク多ハ眼竅藥ヲ以テ攻メ火ヲ以テ烙シ
テ蹄中ヲツ、ム筋骨ヲシテ時ニ病ヒ多キコトヲ免
レシム法ニ依テ行フ時自ラ功アリ

濕漏痛第二

痛極マルコト湿漏ニ遍ルコトナシ只毒氣蹄ニツヽクニ因ル旬日ヲ經スシテ膿トナリテ後遂ニ蹄ヲアチテ歩ミヲウツスコト戈ツシ此病ヒ常ノ人多クシラス切ニ須ラクツマヒラカニ良醫ヲシテ削開シ蹄中ノ毒ヲ出スヘシ立トコロニイヘテ奔走シテ飛カ如シ

## 蹄胎痛第三

蹄胎疼痛ヨノツ子ナラス只血ヲ出シテ鍼ニ傷ラルヽニ因ル世人蹄中ノ痛ミヲ辨セス到ル處ニ醫ヲ求メテ更ニ方ヲ撿ウ此病ヒ全ク療セスンハ前程中路ニ實ニ防キ難シ但藥法ニ依テ勤々ニ理リ病ノ根源ヲ除カハ命自ラ長カラン

## 擘掌痛第四

血蹄頭ニツヽキ擘掌痛ム一回ヒキ動カセハ刀ニテサクニ似タリ直ニ須ク掌内ニ漿ヲソヽキ洗フヘシ藥ヲ用ヒテ瘡ヲ治ス盲醫ニ見セシムルコトナカレ恐ラクハ心肺ヲ将テ亂リニ猜度ヘン更ニ宜ク子細分明ニコヽロムヘシ此法貼シテ便チ安スカルヘシ

## 護干痛第五

熱六腑ニ生シテ掌ノ中カハク繕ヲ入レハ驚キクルヒテ自ラ安カラス是駿駒ニアラス心性劣ル都

テ騎リ動カス二因テ蹄ニ滿テイタム利刀ニテ浮
皮ヲサキ破リ藥潤ホヒテ能ク千里ヲ乗ル此ヨリ
便チ同シク書馬ニ馴ル世人信セスンハ但騎リ
テ看ヨ

土旋痛第六

良驥ノ蹄中土旋多シハシリ行ハツヽツキ痛ミタ
ヘカタシ行時ハサニ途中ノ暑ニ値フ山ト溪ヲ過キ
水ノフカキニ入リ冷熱ヒトシカラスシテ旋裂ヲ生
ス藥塡火烙シテ蹄心ヲツヽム旬日ヲ經スシテ新
甲ヲ生ス削見レハ元ニ依テ書ヒ自ラ生ス

穿漏痛第七



馬穿漏ヲ患フ内ニ毒血ナク亦膿ナシ痛多クシ
テ漸ク筋脉ヲ傷ル長日聲ナクシテ廐ノ中ニ卧
ス但靈膏ヲ用ヒテ塗ルコト數十別ニ新甲ヲ生
シテ其功ヲ見ル更ニ黄藥ヲ將テ頻リニスリヌル
ヘシ

蹄薄痛第八

本是生駒カタチ全カラス四蹄カロク薄クシテ痛
ミ偏ナシ只胎氣ニ因テ生スル時ヨハシ走リハシツ
テ只ウシウ硬キヲフムコトヲ走リカクレハ砂積ヲ過
ルカ如シ算來騎ルモ亦牽クニシカス

水蹄痛第九

良驥イカントモナシ水蹄痛濕ヲフミ泥ニウルホヒ軟カナルコト綿ニ似リ硬キ地ヲハシル時連蹴腫ル砂石ヲ行クトキンハ刀ニテサクカ如シ但人髪ヲ將テ灰末トナシ黄蠟松脂一處ニ煎ス淨ク四蹄ヲ洗ヒテ此藥ヲ塗ルサモアラハアレ乗騎シテ山川ヲ過トモ

蹄裂痛第十

畜ニ天然性高キニイタルアリ群類ト共ニ槽ヲ同シウスルコトヲヨロコハス幾度モ跳リナケウチ甲ヲ傷ルニ因テ數度咆哮シテ痛ミ自ラ遭シホトハシリテ四蹄ヲ損スカクノ如キノ状チ宜シク痛ミヲヤメ蹄ヲ潤ルホス膏ヲ塗ルヘシ若シ還テ掌ト蹄トニ連ナリテ痛マハ鍼烙時ニノリンテ藥ヲ用ヒテ消セヨ

蹄隱痛第十一

水ヲ過キ途泥ヲフムニ因テ砂石カクレテ蹄ニアリ而シテ後ニ入ルコト深クシテ人見ス都テ諸處ニヲイテ良醫ヲモトム但トカリタル物ヲ以テ輕クカケ出ス出シテ藥ヲ用ヒテヌレ此レヨリイタマス瘀ヒ砂石ヲ經テコレヲ防ク

蹄口痛第十二

駿驥ヨリヨリ掌内イタムハ多ク立ニ因テ人ノ乗

ルコトスクナシ乍チ筋脉ヲ傷リ長路ニ行ク血蹄ト
中ニツヽキ出ルコトアタハス擘掌兩邊鐵スルコト
一ト刺更ニ黄藥ヲ將テヌルコト二三度腫毒自ラ消
シテ能クスコヤカニ歩ムケハシキ嶺高キ山自在ニ
行ク

疼蹄痛第十三

四蹄風サカンニシテツヽキテ斑ヲナス連腕腫ルヽ
時ハ尤モ痛ム此蹄ノ疼處去ルコトヤスシ先ツ鐵シ
テ血ヲ出シ後ニ藥ヲヌル旬日ヲ不過シテ定メテ
安カラン白痴ヲシリゾケ盡シテ重子テキヨク洗フタ
トヒ千里ヲ行クトモ豈ニ難シトセンヤ

掌爛痛第十四

掌爛レ痛ム時亦憂ヘシ血蹄中ニ滯リテ流ル
ヽコトアタハス是レ一般輕キ病ヒトイヘトモ常ノ人
イカテカ知リワキテヘン本硬キヲフムニ因テ連胎ヲ
損ス絡シテコレヲ醫スレハ痊ヒ便チイユ

子骨痛第十五

子骨蹄ニ連ナリテ痛ミ心ニ徹ス愚人ハサトラス
何ントシテ尋子ン只ケハシキ徑ヲ經ルニ因テ骨縫
開ク時敗血ヲカス微ク燒烙鐵カルカルシク熨セヨ
蹄門ヨリ血ヲ出ス深クスルコトナカレ仍テ妙藥
ヲ將テ方ニ依テ使ヘ

掌蹄痛第十六

馬遠キニ行クニ因テ太タヨハリ更ニ人ニノラレテ浪沙ヲ過クケツマツキテ掌蹄骨ニ連ナリテ痛ム十日或ハ半月尚スクミスクム其中毒血出ルトイヘトモ藥ヲ以テコレヲ最メハ疼ミナクシテ筋骨スコヤカナリ

○岐伯馬瘡腫病源論

黄帝岐伯ニ問テ曰ク五臟六腑ノ邪熱毒何ヲモツテカコレヲ知ン岐伯荅テ曰ク榮衛サラニ經脉ノ中ニ稽留シ久シキ則ンハシフリテユカス便チ胃ノ氣コレニシタカツテ通セス壅滯シテ行コトアタハサレハ火氣止マス熱盛ンナル則ンハ肉マサニ膿トナルヘシ然シテ化シテ皮膚ニイルコトアタハス骨髓ニ於テ焦枯ヲナサス五臟六腑故ニ毒ヲナス也

黄帝岐伯ニ問テ曰ク何ヲカ顯毒トス岐伯荅テ曰ク熱氣浮ミ其筋骨肉ニ當テ餘リナシ故ニ毒瘡トナル上皮膚ウスクシテ紙ノ如ク已ニ堅マリテ裏ニ腫毒ヲナス氣ハ經絡ニシタカツテ行ク壅注シテ膿ヲナス也

黄帝又岐伯ニ問テ曰クナンヂ説ク處ニ及ンテイマタ其子細ヲシラス瘡腫スヘテ幾クシナカアル岐伯荅テ曰ク腫テ頭ナキモノアリ是レ熱氣ノ毒其膿

血アルモノハ是心毒腫硬シテ石ノ如クナルハ是陰毒眼下ノ瓜瘡アルハ是肝毒鼻内ニアルハ是肺毒口内ニ瘡ヲ發スルハ是心毒躁蹄發シテアルハ筋毒漏蹄瘡アルハ是腎毒乾漏ナルハ是血毒唇上ニ瘡アルハ是脾毒此ハ是十毒ノカタチ也

假名安驥集巻第二終

国立公文書館
National Archives of Japan